

第3章 本庄市の地域特性

自然環境特性

(1) 地勢

本市は、東京から 80km 圏、埼玉県北西に位置する面積 89.69km²、人口約 7 万 7 千人の都市です。東は深谷市、西は上里町・神川町、南は美里町・長瀨町・皆野町、北は利根川を挟んで群馬県伊勢崎市に接しています。

地形は概ね平坦で安定した地盤を有していますが、長瀨町等との境界に近い南西部は、陣見山等の 500m 級の山々が連なる山間地となっており、水と緑豊かな自然環境に恵まれたところです。

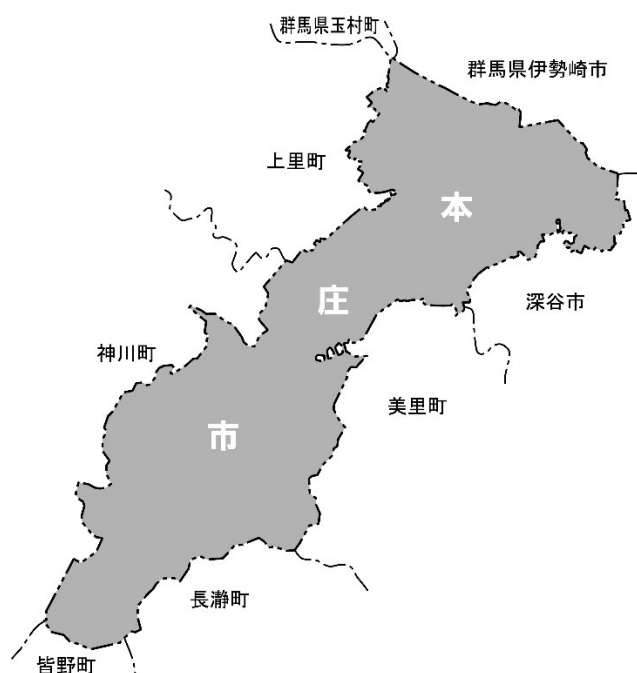


図 3-1 本庄市の位置

資料：本庄市環境基本計画

(2) 気象

以降に示す気象台データについては、本市において観測所がないため、熊谷地方気象台のデータを整理したものです。

図 3-2 のとおり、太平洋側内陸性の気候特徴を示し、本市の月別平均気温は 8 月が最も高く、年間の平均気温は 15.2℃です。

月平均降水量は 9 月が最も多くなっています。これは、昭和 55 年（1980 年）以降の関東地方への台風の接近数が、9 月が最も多いことが理由と考えられます。

また、最高気温が 25℃以上となる夏日、30℃以上となる真夏日、35℃以上となる猛暑日、最低気温が 25℃以上となる熱帯夜は、図 3-3 のとおり、いずれも昭和 55 年（1980 年）以降増加傾向にあります。

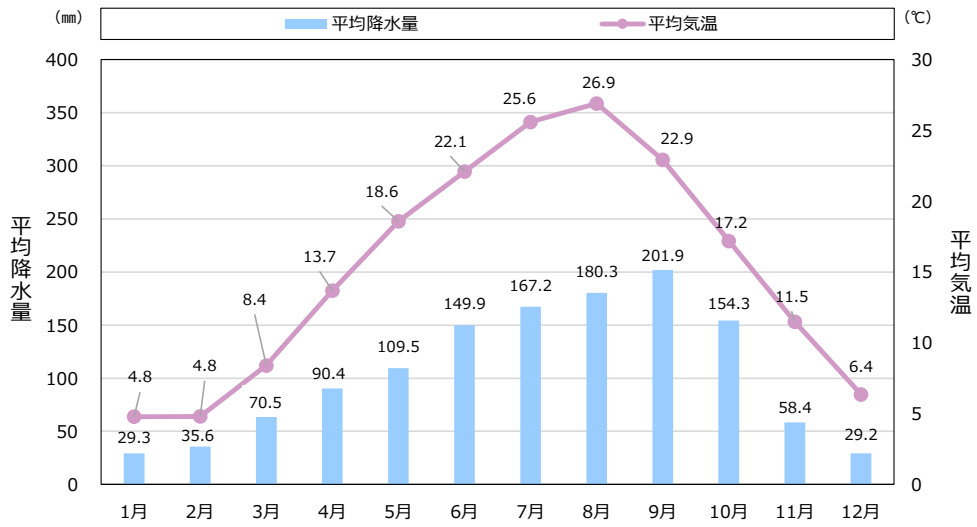


図 3-2 熊谷地方気象台の月別平均気温及び平均降水量
(昭和 55 年 (1980 年) ~ 令和 5 年 (2023 年))

資料：気象庁ホームページ

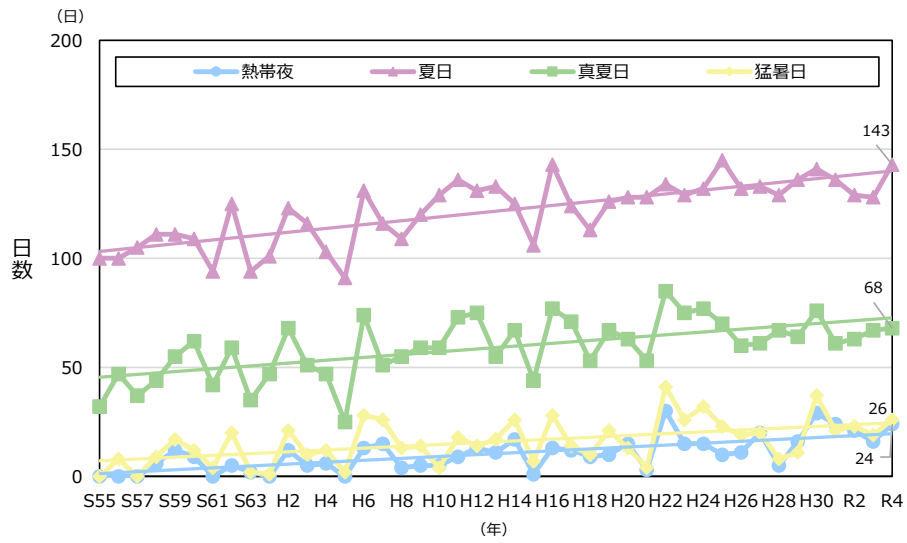


図 3-3 熊谷地方気象台の熱帯夜、夏日、真夏日、猛暑日の日数の推移
(昭和 55 年 (1980 年) ~ 令和 4 年 (2022 年))

資料：気象庁ホームページ

(3) 日照

図 3-4 のとおり、本市の日射量は、4.0～5.3kWh/m² の間で推移し、年間を通して 4.0kWh/m² 以上を維持しており、他都市と比較して、冬季も日射量が高い傾向にあります。

また、図 3-5 で示すとおり、日照時間の月平均に関して、降水量が少ない冬季に長い傾向にあります。

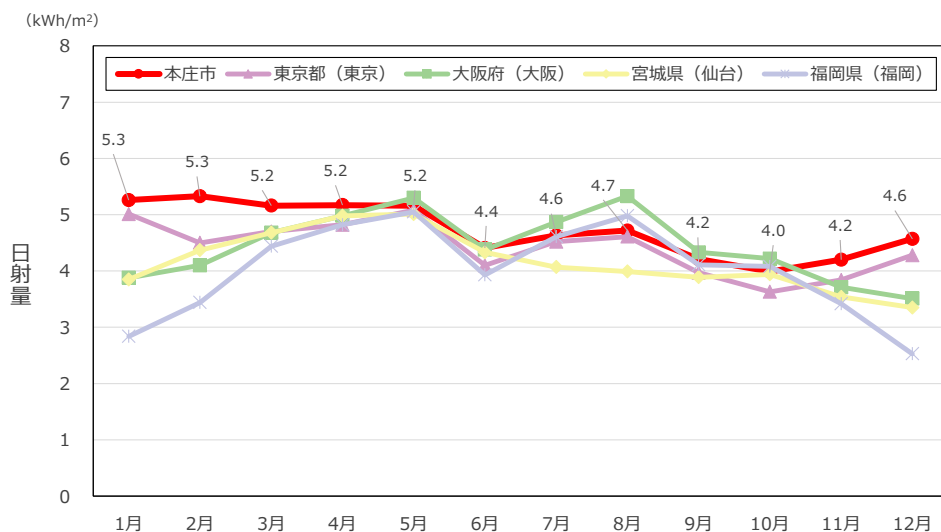


図 3-4 本庄市及び他都市の月別日射量

資料：NEDO 全国日射量データベース

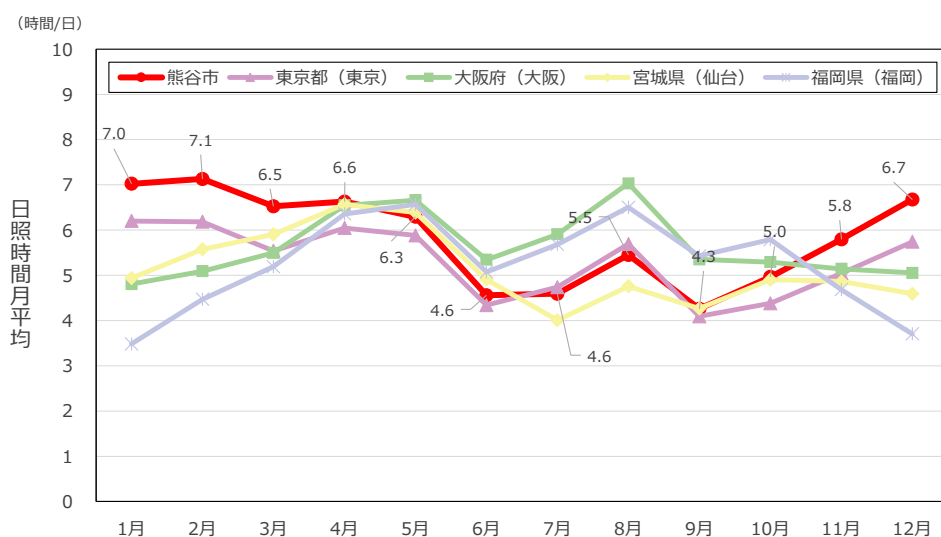


図 3-5 熊谷地方気象台及び他都市の月別日照時間月平均

(昭和 55 年 (1980 年) ~令和 5 年 (2023 年))

資料：気象庁ホームページ

(4) 風況

本市の年平均風速は、図 3-6 のとおり 3.0~4.0m/s 程度となっています。

風力発電は、陸上の場合に年平均風速 5.5m/s 以上が適地としての目安になりますが、本市はこの風速よりも小さくなっています。

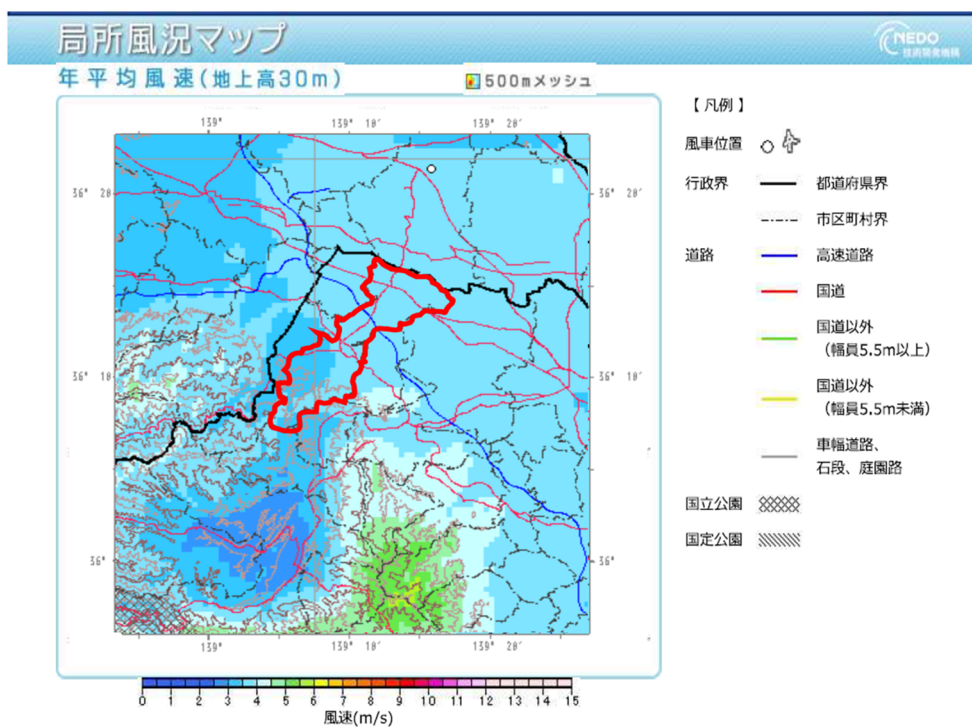


図 3-6 本庄市周辺の風況 (年平均風速)

資料：NEDO 局所風況マップ

社会特性

(1) 人口

本市の人口は、図 3-7 のとおり年々減少しています。現状のまま推移した場合、人口減少が進捗し、令和 22 年（2040 年）には 65,356 人まで減少する見込みとなっています。

また、図 3-8 のとおり世帯数は増加傾向にあります。世帯あたり人口が減少しています。

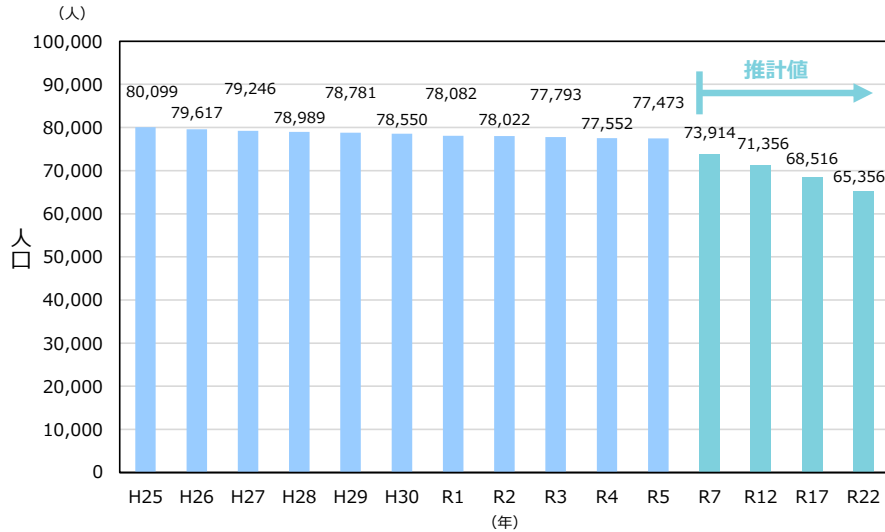


図 3-7 人口の推移

※平成 25 年（2013 年）～令和 5 年（2023 年）の人口は、該当年 4 月 1 日時点のもの

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年（2018）年推計）」

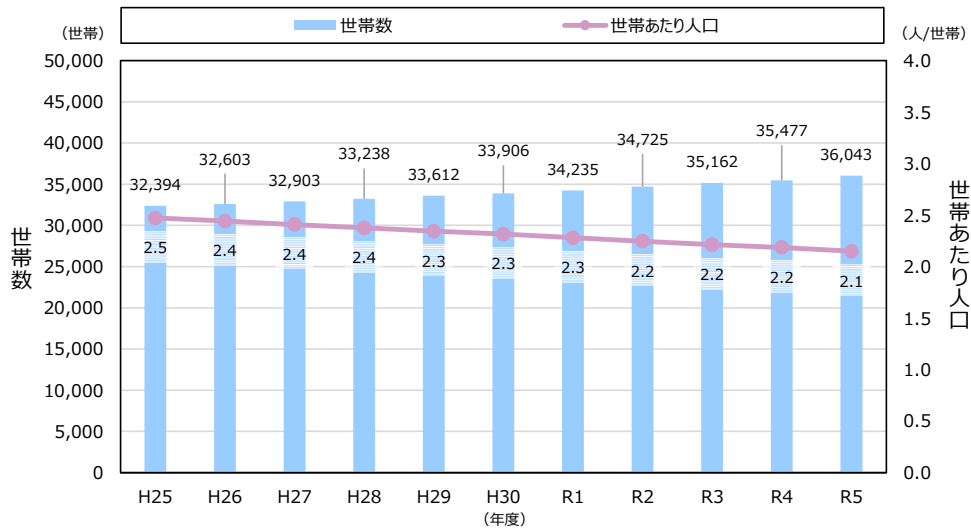


図 3-8 世帯数及び世帯あたり人口の推移

(2) 土地利用

本市の総面積は8,969haであり、地目別土地面積割合は、図 3-10 に示すとおり、令和3年（2021年）1月1日現在で、宅地が最も多い26.2%を占めています。

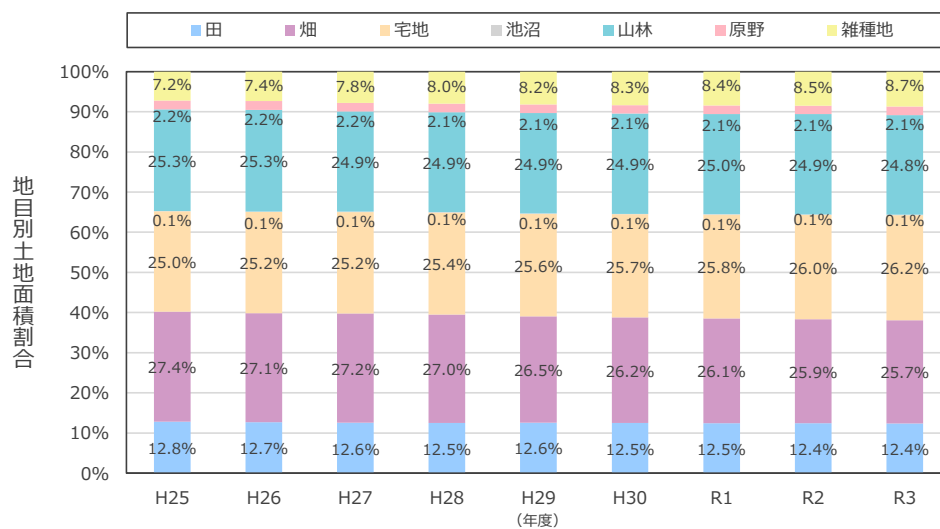


図 3-9 本庄市の地目別土地面積割合の推移
 ※「その他」の項目を除いて集計
 ※小数点以下によって合計値が一致しない場合があります

資料：埼玉県「埼玉県統計年鑑」

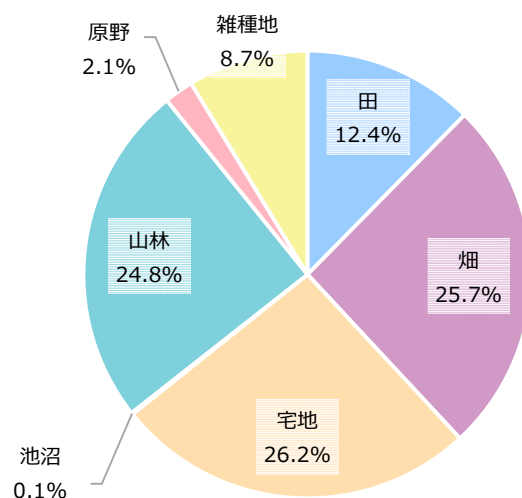


図 3-10 本庄市の地目別土地面積割合
 （令和3年（2021年）1月1日現在）

資料：埼玉県「埼玉県統計年鑑」

(3) 産業

1) 事業所数

図 3-11 のとおり、本市の事業所数は、平成 16 年度（2004 年度）から平成 18 年度（2006 年度）にかけて 40.7%増加したものの、平成 21 年度（2009 年度）から再び減少傾向にあります。令和 3 年度（2021 年度）の総事業所数は 3,320 事業所で、業種別の内訳は、図 3-12 に示すとおり卸売業、小売業が最も多い 22.9%となっています。

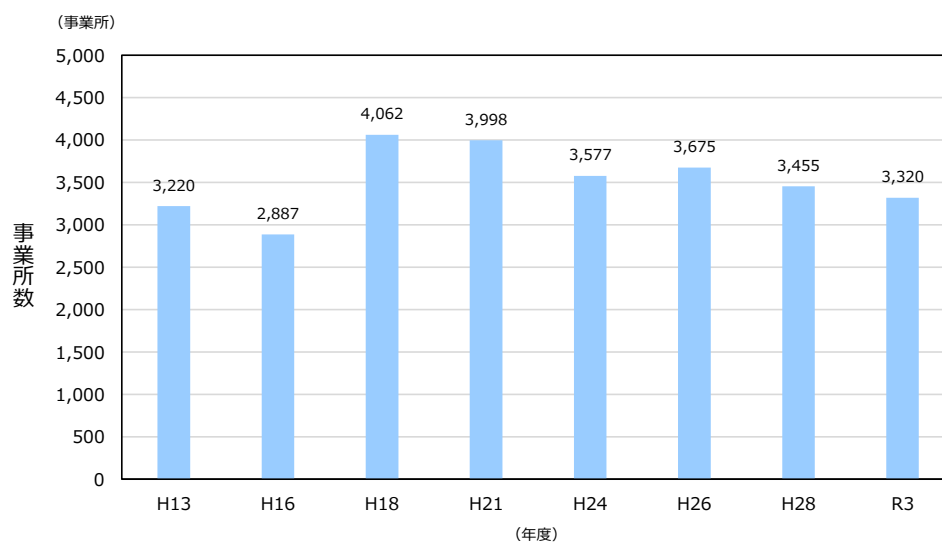


図 3-11 本庄市の事業所数の推移

資料：総務省統計局「令和 3 年経済センサス - 活動調査」

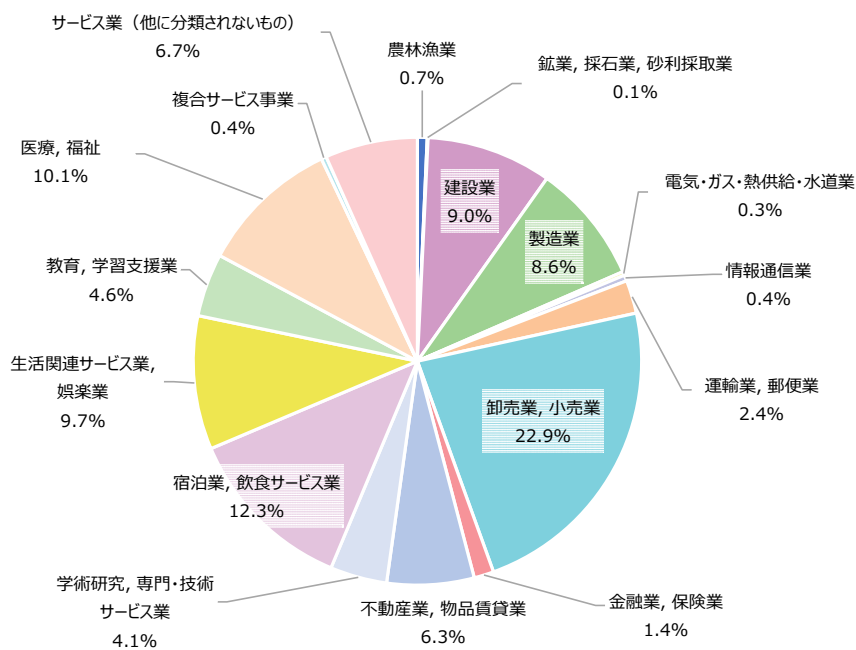


図 3-12 本庄市の産業（大分類）別事業所数の割合

(令和 3 年 (2021 年))

資料：総務省統計局「令和 3 年経済センサス - 活動調査」

2) 従業者数

事業所数は卸売業、小売業が最も多いのに対し、従業者数は図 3-13 のとおり製造業が最も多い 21.4% を占めています。

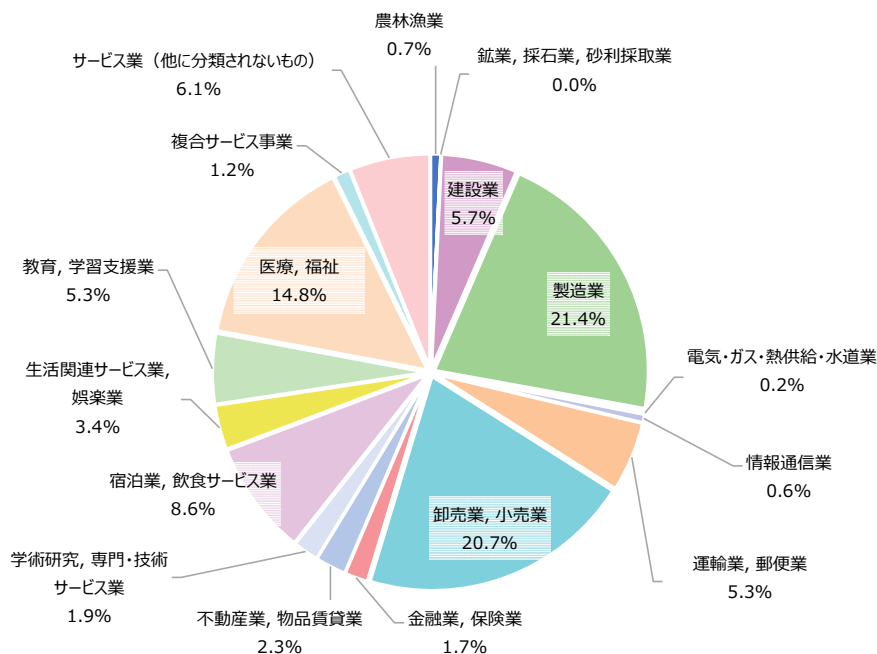


図 3-13 本庄市の産業（大分類）別従業者数の割合
(令和 3 年 (2021 年))

※小数点以下によって合計値が 100%にならない場合があります

資料：総務省統計局「令和 3 年経済センサス - 活動調査」

3) 製造品出荷額

本市の製造業全体としての製造品出荷額は、図 3-14 のとおり平成 27 年度 (2015 年度) にかけて増加傾向にありましたが、平成 28 年度 (2016 年度) に減少し、平成 29 年度 (2017 年度) からは増加傾向にあります。

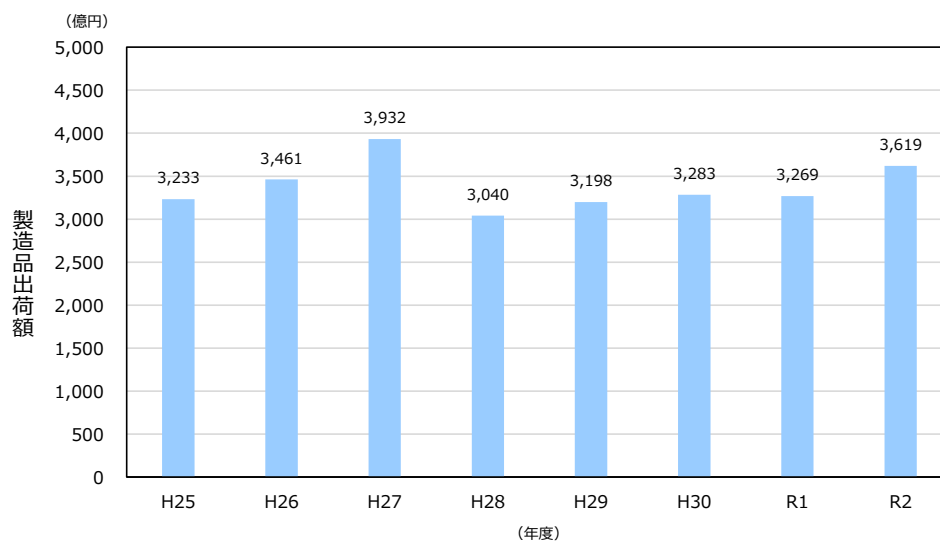


図 3-14 製造品出荷額の推移

※平成 29 年度 (2017 年度) 調査より調査方法を変更

資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省統計局「令和 3 年経済センサス - 活動調査」

(4) 交通

図 3-15 のとおり、本市における登録自動車数は増加傾向にあり、平成 25 年度（2013 年度）から令和 4 年度（2022 年度）の 10 年間で、9.2%増加しています。

本市における公共交通機関の利用者数は令和元年度（2019 年度）から令和 2 年度（2020 年度）にかけて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による行動制限等により大きく減少しましたが、行動制限等の緩和に伴い、令和 3 年度（2021 年度）以降は回復傾向にあります。

図 3-16 のとおり、本市における鉄道利用者数は、本庄駅においては平成 27 年度（2015 年度）を境にして減少傾向にある一方で、児玉駅と本庄早稲田駅においては令和元年度（2019 年度）まで横ばいで推移しており、その後、令和 2 年度（2020 年度）には本庄駅、本庄早稲田駅で大きく減少しましたが、令和 3 年度（2021 年度）以降は回復傾向にあります。

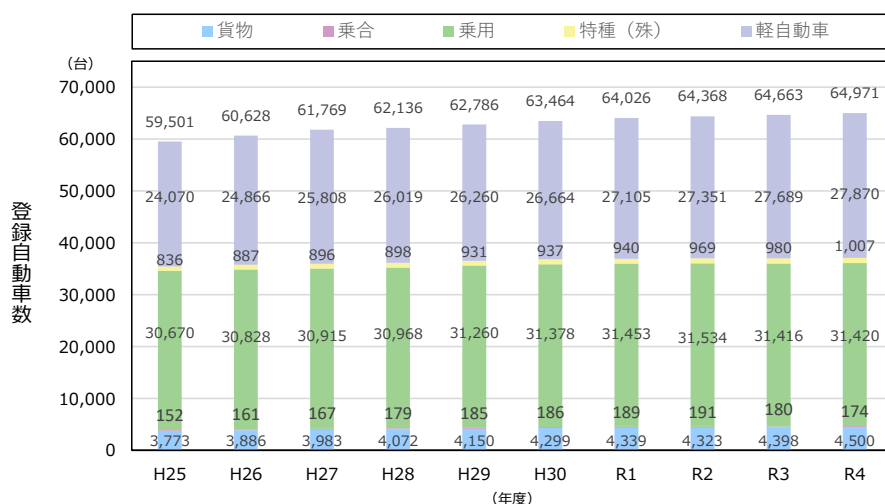


図 3-15 本庄市の登録自動車数の推移

資料：関東運輸局「市区町村別自動車保有車両数」、(一社)全国軽自動車協会連合会「市区町村別軽自動車車両数」

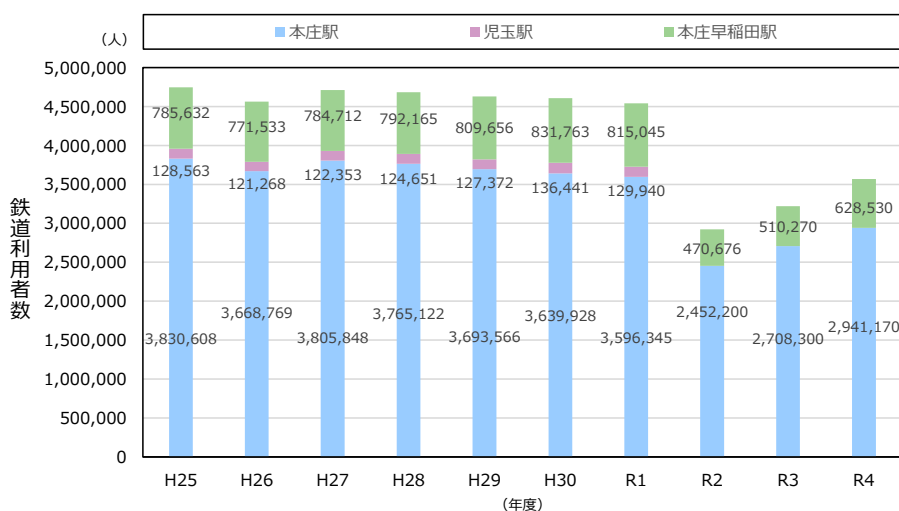


図 3-16 本庄市の鉄道利用者数の推移

※令和元年度（2019 年度）以降は、1 日平均での統計値のため、「1 日平均利用者数×1 年間の日数」にて算出
 ※児玉駅は令和 3 年（2021 年）3 月 13 日から駅員無配属駅のため、令和 2 年度（2020 年度）以降公表データなし

資料：東日本旅客鉄道（株）

デマンドバス（はにぼん号及びもといずみ号）の利用者数は、図 3-17 のとおり、平成 26 年度（2014 年度）を境にして減少傾向にありましたが、令和 3 年度（2021 年度）以降は増加傾向に転じています。シャトルバスの利用者数は、令和元年度（2019 年度）まで増加傾向でしたが、令和 2 年度（2020 年度）に大きく減少し、令和 3 年度（2021 年度）以降は増加傾向に転じています。

また、図 3-18 に示すとおり、各路線バスの利用者数は、令和元年度（2019 年度）まで増加傾向でしたが、令和 2 年度（2020 年度）に大きく減少し、令和 3 年度（2021 年度）には回復傾向にあります。

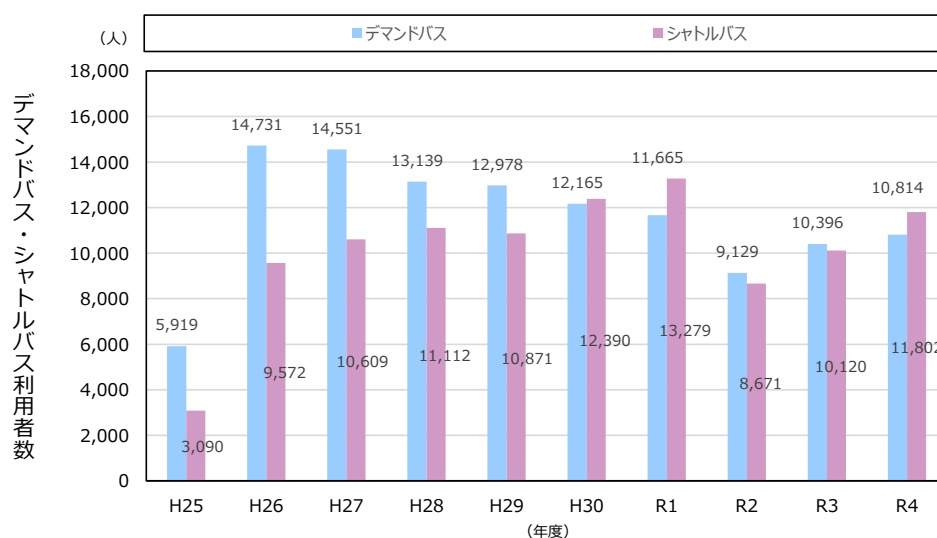


図 3-17 本庄市のデマンドバス及びシャトルバス利用者数の推移
※年度の期間はすべて「前年 10 月～該当年 9 月」を示す

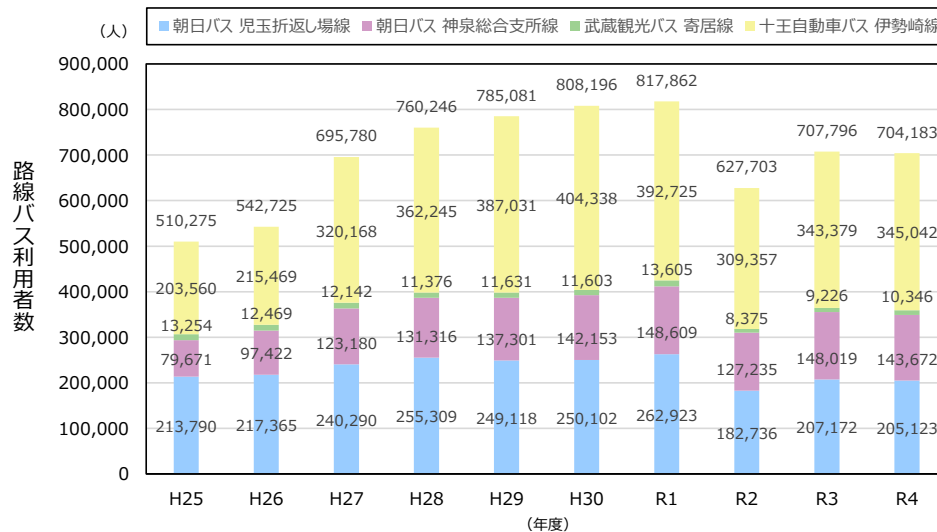


図 3-18 本庄市の路線バス利用者数の推移

資料：本庄市地域公共交通計画

(5) 廃棄物

本市における一般廃棄物の焼却量は、図 3-19 のとおり平成 29 年度（2017 年度）にかけて減少傾向にあったものの、平成 30 年度（2018 年度）から令和元年度（2019 年度）にかけて増加に転じ、以降再度減少傾向にあります。

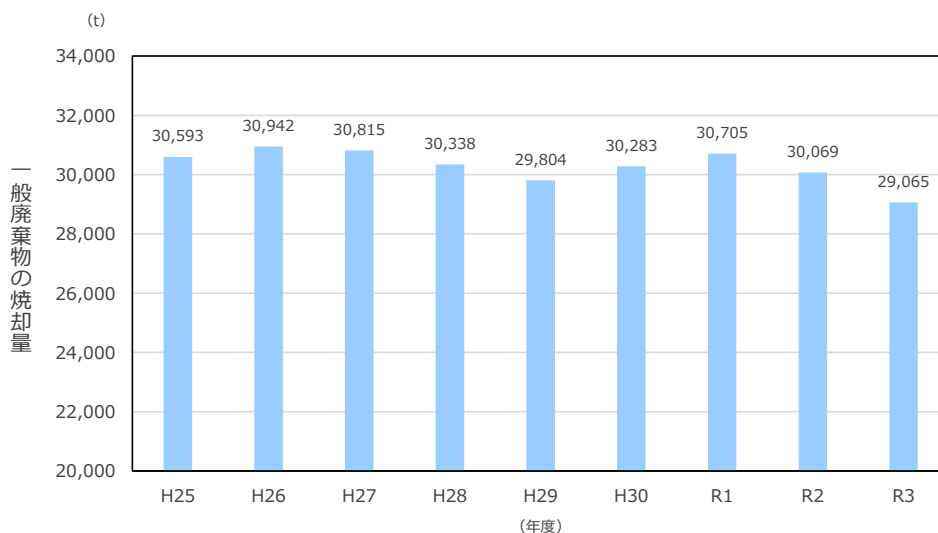


図 3-19 本庄市における一般廃棄物の焼却量の推移

資料：環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」

廃プラスチックの組成率（焼却ごみに含まれる廃プラスチックの割合）は表 3-1 のとおりです。本市のごみを処理している児玉郡市広域市町村圏組合立小山川クリーンセンターにおける廃プラスチックの組成率は、埼玉県平均と比較して、多い状況です。

表 3-1 廃プラスチックの組成率（令和 3 年度（2021 年度））

	組成率
小山川クリーンセンター	27.0%
埼玉県平均	24.0%

資料：児玉郡市広域市町村圏組合「清掃事業概要【令和 3 年度版】」、埼玉県「一般廃棄物処理事業の概況 ～令和 3 年度実績～」